

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 統計企画室 御中

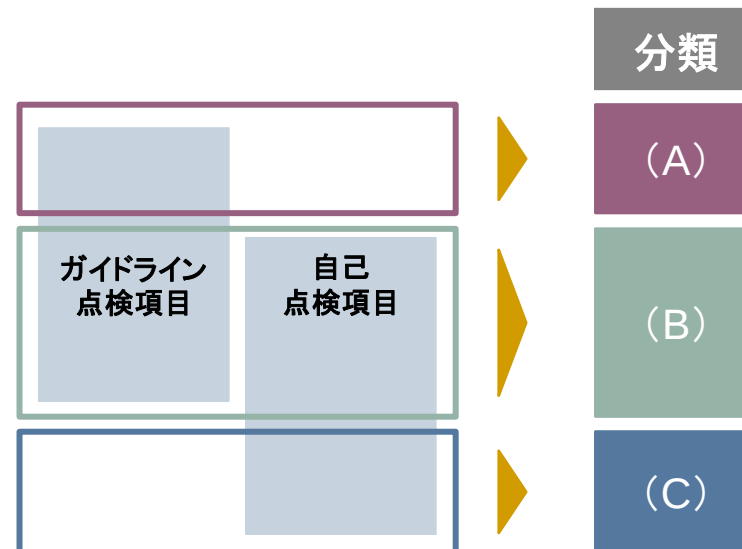
令和3年度統計調査業務改善に関する調査研究事業
調査報告書

(3) PDCAサイクルの確立と経済産業省の 自己点検業務との効率的実施の方策

2022年2月8日

「ガイドライン点検項目」と「自己点検項目」の関連付け

- 自己点検効率化を検討するにあたり「ガイドライン点検項目」と「自己点検項目」の関連付けを行い、項目を下記の3つに分類します
 - 分類(A) : 「ガイドライン点検項目」にしかない点検項目
 - 分類(B) : 「ガイドライン点検項目」と「自己点検項目」の両方に存在する点検項目
 - 分類(C) : 「自己点検項目」にしかない点検項目
- 点検項目単位の分類は、別資料「【METI】【統計調査業務改善】(3)PDCAサイクルの確立と経済産業省の自己点検業務との効率的実施の方策_【別添】「自己点検」「PDCAチェックリスト」の関連付け.xls」を参照

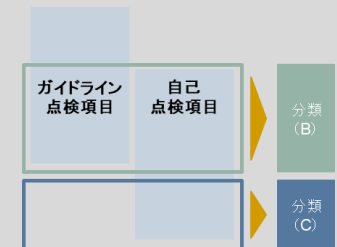


自己点検効率化検討の進め方

- 自己点検効率化は、下記の3STEPに分けて検討を実施しました

検討内容		検討対象項目	
STEP1	点検項目自体を削除できないか？ 仕組み的に担保できて等理由でも『不整合』になりようがない点検項目はないか？		分類 (C)
STEP2	点検する頻度を下げられないか？ 該当項目の内容が年度ごとに変わる内容か？それともあまり変わらない内容か？	分類 (B)	
STEP3	点検の仕方を効率化できないか？ やり方やプロセスを見直すことで作業工数を減らすことができないか？	分類 (B)	分類 (C)

【凡例】



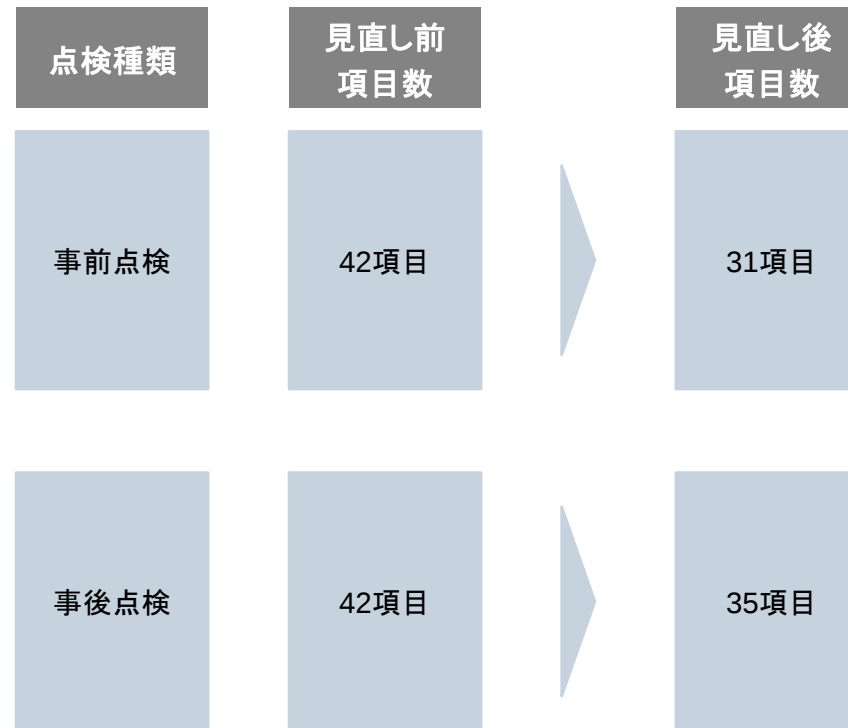
STEP1: 点検項目自体を削除できないか？

- MURCにて削除しても品質に影響がないと思われる点検項目がないかを確認し、候補を2項目抽出しました。統計企画室に、該当の2項目の削除の可能性について、ご相談させて頂きましたが、削除はしないこととしました

No	確認事項	チェックの視点	統計企画室から頂いたご意見	調査課室から頂いたご意見
8	「統計作成におけるデータ入力に関する業務標準」に従って作業を行っているか。 (平成30年5月31日の管理職会議において対応依頼済み)	平成30年5月31日に実施した統計関係課室長会議で配布した資料において、「統計関係課室は、統計作成におけるデータ入力に関する業務標準に関する実施状況を整理し、資料として取りまとめるうえ、セルフチェックを行う。」としています。	鉱工業指数でのデータ入力ミスをきっかけに「統計作成におけるデータ入力に関する業務標準」が作成され、それに基づいて業務を行っているかの確認をすることになったもの。業務マニュアルチェックリストの取組が開始されたら自己点検からは削除してもよいか。	打ち合わせの際にも話に出たが、調査実施業務を外注している課室がほとんどであり、複数年契約も多いので、業者が替わったタイミングか事後点検時のみに点検することでもよいのではないかな。
27	復元推計の実施	実施している調査が復元推計が必要なものかどうか理解しているか 復元推計が必要ないと整理している場合、その理由を説明できるか	毎月勤労統計が復元推計を実施していなかったこと、その際の一斉点検で復元推計についても点検項目として入っていたことから追加したもの。集計事項の確認の際に合わせて確認するようにすれば削除可能かもしれない。	総務省のチェックリストとも重複しているので、総務省への提出頻度(2～3年に一度、もしくは2～3グループに分けて3年おきや2年おき等)に合わせて点検を行うか、調査計画の変更が生じたタイミングで事後的に点検を行うということでも良いのではないかな。ただ、省内の調査実施課室にヒアリングをした経験からすると、調査統計グループ以外は担当者にもよるかもしれないが、全ての項目で毎年点検をしたほうがよいような気もする。

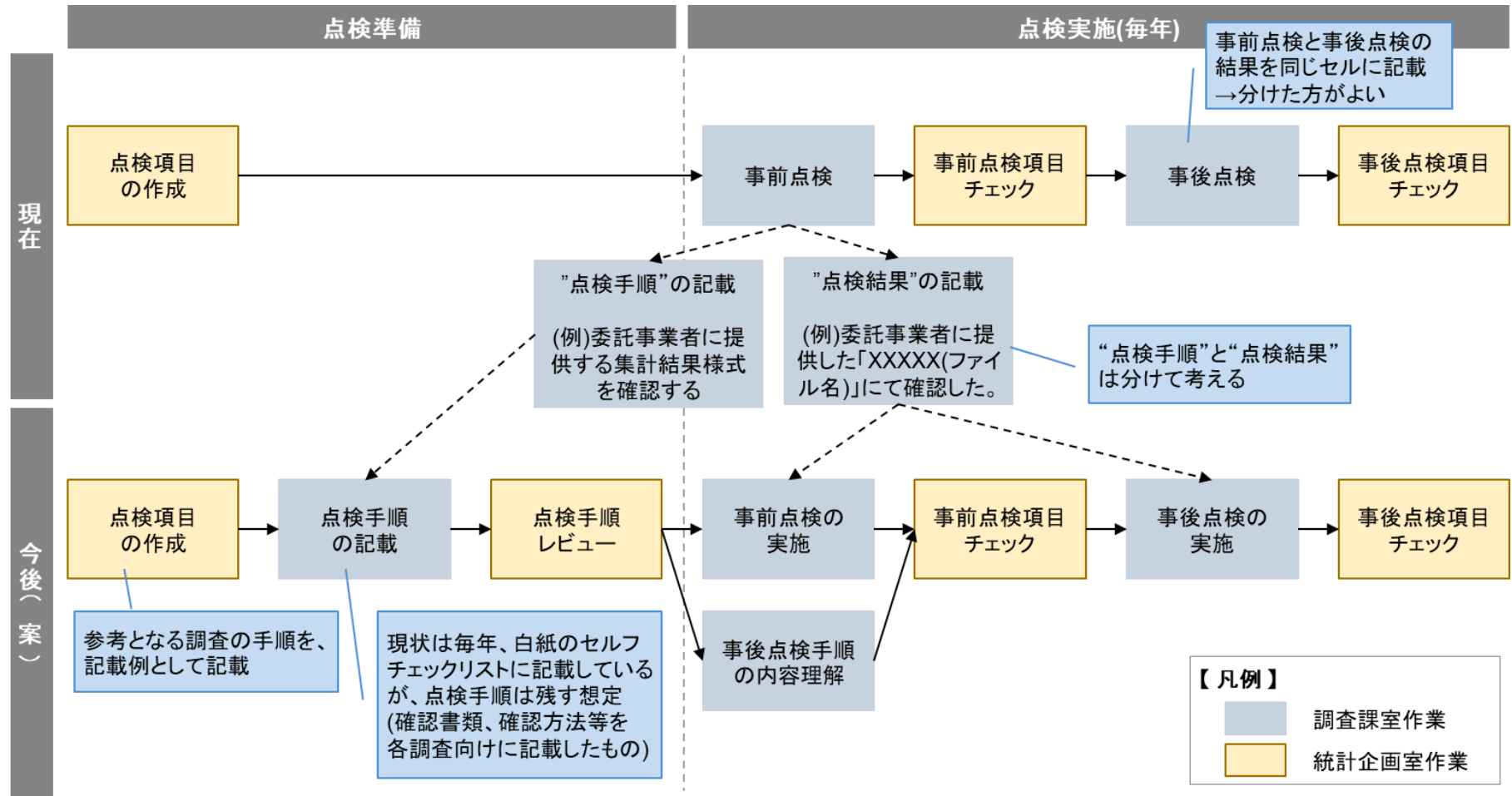
STEP2: 点検する頻度を下げられないか？

- 事前点検・事後点検のみの実施でも品質を担保できる項目の精査を実施し、84項目だった点検項目数は66項目となりました



STEP3: 点検の仕方を効率化できないか？

- 点検の仕方、及びセルフチェックシートのフォーマット変更を行うことで、点検の効率化を図ります



三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

www.murc.jp/